



令和5年6月30日

第332号

〔発行〕(公社)神奈川県労務安全衛生協会藤沢支部
支部長 いすゞ自動車株式会社 藤沢工場
編集 藤沢支部 広報部 会
<http://www.roaneikyo.or.jp/shibu/fujisawa/index.htm>

令和5年度 「全国安全週間」を迎えて



藤沢労働基準監督署
署長 下川 眞 徳

神奈川県労務安全衛生協会藤沢支部の会員事業場の皆様には、日頃から私ども労働基準行政の推進につきまして格別なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年も7月1日から全国安全週間を迎えます。全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という基本理念の下、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に、一度も中断することなく続けられ、今年で96回目を迎えます。

藤沢労働基準監督署管内における労働災害は長期的には減少していますが、令和4年については、休業4日以上死傷災害は新型コロナウイルスの影響を除いた件数でも701件と前年を36件上回っており、近年、増加傾向に歯止めがかからない状況となっています。

藤沢労働基準監督署管内における労働災害が700件を超えるのは、平成8年の708件以来で、20年以上前の水準の災害発生件数となり、大変憂慮すべき事態となっています。

特に、転倒や腰痛といった労働者の作業行動に起因する死傷災害などが依然として後を絶たない状況にあります。また、60歳以上の高年齢労働者

の労働災害が増加しているほか、中小事業場における労働災害の発生が労働災害の多数を占めており、中小事業場を中心に安全衛生対策の取組促進が不可欠な状況にあります。

このような状況の中、職場の安全を確保するためには、経営トップが安全衛生方針を表明するとともに、関係者一人ひとりが安全意識を持って行動することが重要となります。

そこで、本年度の全国安全週間は

「高める意識と安全行動

築こうみんなのゼロ災職場」

をスローガンに、6月1日から6月30日を準備期間、7月1日から7月7日を本週間として全国的に実施されます。

会員事業場の皆様には、全国安全週間実施要綱に定める実施事項、例えば安全大会等での経営トップによる安全への所信表明を通じた関係者の意思の統一及び安全意識の高揚、安全パトロールによる職場の総点検の実施等の工夫を凝らした行事を展開することにより、この安全週間を契機に、自主的な安全管理活動が定着し、職場の安全管理水準が一層高まることを念願しております。

〔令和5年度(公社)神奈川県労務安全衛生協会藤沢支部スローガン〕

安全は一人ひとりの意識から
世代をつなぐ安全対話 みんなで築く快適職場

第96回全国安全週間湘南地区推進大会

6月8日(木) 於：藤沢市民会館小ホール

「第96回全国安全週間湘南地区推進大会」が6月8日(木)に藤沢市民会館小ホールで開催され、藤沢労働基準監督署の主唱のもと、128社170名の方々が参加しました。今年度の全国安全週間のスローガンは「高める意識と安全行動築こうみんなのゼロ災職場」となっています。

開会では、陸上貨物運送業労働災害防止協会神奈川支部湘南分会の大竹分会長による挨拶が行われ、藤沢労働基準監督署の下川署長からも来賓挨拶がありました。

また、茅ヶ崎市の佐藤市長からも祝辞が述べられ、藤沢労働基準監督署の伊地知安全衛生課長からは「第96回全国安全週間実施要項および湘南地区推進大会趣旨の説明」が行われました。

特別講演では、労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所の大西上席研究員により、「テールゲートリフターによる荷役作業における特別教育の義務化について～安全かつ効率的に作業するためのポイント～」というテーマで講演が行われました。

大会は、建設業労働災害防止協会神奈川支部小玉湘南分会長による閉会挨拶で盛大に幕を閉じました。参加者の皆様は、貴重な知識や洞察を得るとともに、労働災害ゼロの社会を目指し、安全な職場環境を確保するために力を合わせましょう。

ご参加いただき、ありがとうございました。

【メルシャン(株) 藤沢工場 横井 健】



労働者数50人未満の事業場を支援

健康診断の事後措置、長時間労働者の面接指導など、無料で利用可能！

「湘南地域産業保健センター」

住所：藤沢市藤沢976-2 秀明ビル402号

TEL：0466-27-6238 FAX：0466-27-6238 Email：sanpo-sh@atlas.plala.or.jp

主な産業保健サービス「全て無料」

- 労働者の健康管理(メンタルヘルスを含む)に係る相談
- 健康診断結果からの医師の意見聴取
- ストレスチェックに係る高ストレス者及び長時間労働者に対する面接指導
- 個別訪問による産業保健指導

※利用には事前の申込みが必要です。事業場の体制や利用回数に制限があります。

STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン

キャンペーン期間（5月～9月）にすべきこと

STEP
1

暑さ指数の把握と評価

- JIS規格に適合した暑さ指数計で暑さ指数を随時把握
地域を代表する一般的な暑さ指数（環境省）を参考とすることも有効



環境省
熱中症予防情報
サイト

STEP
2

測定した暑さ指数に応じて以下の対策を徹底

<input type="checkbox"/> 暑さ指数の低減	準備期間に検討した設備対策を実施
<input type="checkbox"/> 休憩場所の整備	準備期間に検討した休憩場所を設置
<input type="checkbox"/> 服装	準備期間に検討した服装を着用
<input type="checkbox"/> 作業時間の短縮	作業計画に基づき、暑さ指数に応じた休憩、作業中止
<input type="checkbox"/> 暑熱順化への対応	7日以上かけて熱へのばく露時間を次第に延長 ※新規入職者や休み明け労働者に注意
<input type="checkbox"/> 水分・塩分の摂取	水分と塩分を定期的に摂取
<input type="checkbox"/> プレクーリング	作業開始前や休憩時間中に深部体温を低減
<input type="checkbox"/> 健康診断結果に基づく対応	次の疾病を持った方には医師等の意見を踏まえ配慮 ①糖尿病、②高血圧症、③心疾患、④腎不全、⑤精神・神経関係の疾患、⑥広範囲の皮膚疾患、⑦感冒、⑧下痢
<input type="checkbox"/> 日常の健康管理	当日の朝食の未摂取、睡眠不足、前日の多量の飲酒が熱中症の発症に影響を与えることを指導し、作業開始前に確認
<input type="checkbox"/> 作業中の労働者の健康状態の確認	巡視を頻繁に行い声をかける、労働者にお互いの健康状態を留意するよう指導
<input type="checkbox"/> 異常時の措置	少しでも本人や周りが異変を感じたら、必ず一旦作業を離れ、病院に搬送する（症状に応じて救急隊を要請）などを措置 ※全身を濡らして送風することなどにより体温を低減 ※一人きりにしない

重点取組期間（7月）にすべきこと

- 暑さ指数の低減効果を再確認し、必要に応じ対策を追加
- 暑さ指数に応じた作業の中断等を徹底
- 水分、塩分を積極的に取らせ、その確認を徹底
- 作業開始前の健康状態の確認を徹底、巡視頻度を増加
- 熱中症のリスクが高まっていることを含め教育を実施
- 体調不良の者に異常を認めるときは、躊躇することなく救急隊を要請

安・健・快 雑感

今年4月から、長男が中学生の野球クラブチームに加わり、車での送迎やチーム練習の補助をするようになりました。私は野球経験があるものの、年齢も40代中盤に差し掛かり、練習中のボール拾いやノックをするだけでも、1日の練習が終わった頃には、自身の足腰が弱っていることを痛感させられています。

日頃、通勤を利用して1万歩を歩くように心掛けていたものの、それでは足りないと感じてしまいました。そこで、先日思い立ったが吉日と考え、ジョギングすることを始めました。しかし、当然のことながら、翌日には全身が筋肉痛になり、階段の昇降だけでも身体の至る個所から悲鳴が上がる状況が続いてしまいました。自身の気持ちは

「これくらい走れる！」と想着いても身体は思うように動かず、現状の体力に見合わない距離を走ってしまった当然の結果となりました。この調子では、三日坊主になってしまうことが目に見えたので、改めて計画的に無理なく体力を戻していこうと考え、今後は週2回程度、近所の平坦な川沿いをゆっくりとジョギングしていく計画です。まずは、今回の「安・健・快 雑感」が掲載される頃までジョギングが継続することを目標にしたいと思います。その後ジョギングを習慣化することができれば、1年間継続できるように頑張りたいと思います。そして、最終的には、長男が中学野球を卒業する頃まで怪我をせずに、無理なくジョギングを続けることができればいいなと思っています。

(株)明治 神奈川工場
小倉 一彰

〔当面の行事予定〕

○第1回	KYT (危険予知訓練)研修会	7月4日(火)
○第3回	フルハーネス型墜落制止用器具特別教育	7月6日(木)
○第3回	職長教育講習会〔2日間〕	7月10日(月)～7月11日(火)
○第2回	粉じん作業特別教育	8月25日(金)
○第1回	職長能力向上教育	8月30日(水)
○第1回	有機溶剤業務従事者に対する特別な労働衛生教育	8月31日(木)
○第1回	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習〔2日間〕	9月11日(月)～ 9月12日(火)
-	労務管理セミナー	9月19日(火)

労安協藤沢支部
講習会等開催予定

各種大会行事予定

○第74回	全国労働衛生週間湘南地区推進大会	9月7日(木)
○第82回	全国産業安全衛生大会〔現地開催：名古屋〕	9月27日(水)～9月29日(金)

〔編集後記〕

5月末からずいぶんとあたたかく、大変蒸し暑くなってきました。コロナ禍を乗り越えた先で街の様子もすこしずつ変わり始めて気を配りつつもいろいろなものの「再開」を目のあたりに嬉しくもある毎日です。

一方で小さな地震が多発し、6月初旬にも関わらず台風、豪雨もあり、防災事業の私は特に最近の自然災害では皆さんが想定している以上の災害が発生していることに気がなります。今後発生する確率の高い「南海トラフ巨大地震」では広域での地震災害及び津波災害が発生すると言われてい

ます。ある大学教授の津波災害に対する取り組みの言葉を引用しますと二つ大切な事があり、一つは「津波から逃げ切る」こと。迅速な避難を一人一人が徹底することが重要です。もう一つは「災害を乗り越えて生き抜く」こと。コロナを乗り越えた私たちは、自分自身の命、大切な人の命、次の世代の子供たちの命を守る為、災害に対する意識、地域における防災・減災の取り組みや災害発生時の対策についても今一度確認してはいかがでしょうか？

<広報部会：モリタ宮田工業(株) 北田 ゆかり>